

ことと置く軽くて小さき古茶の缶

~~何となく新茶の終ひの一雫~~

夏は新茶冬は蜜柑や富士を見て

汗ばむと云ふにあらねど新茶かな

古茶といふ音の響きも古茶らしく

古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし

山葵漬なめて新茶をいれかへて

自ら色に出でたる古茶新茶

若きらに道を譲りて古茶啜る

~~出瀧らしのやうな箴言古茶新茶~~

色も香も新茶なりけり飲むべかり

心して古茶の別れを惜しむべく

新茶の葉葉の面影はなけれども

~~新茶汲む言葉に負荷を掛けぬやう~~

~~新茶蒸らす既に急須を溢るる香~~

~~真つ暗な急須に残る新茶の香~~

~~真つ暗な急須の中の新茶の香~~

禅僧と古茶を啜りて風の音

送るてふ新茶待たるる釘煮かな

~~注文の新茶を待てる釘煮かな~~

長幼の序を大切に古茶新茶

~~滴々の新茶のしづく静かな夜~~

湯加減を塩梅申す新茶殿

日曜の朝に届きし新茶かな

~~俳人や古茶の別れを惜しむべく~~

~~老兵の昔語りや古茶新茶~~

嚶して新茶娘が駅前

2025・6・8【全然堂歳時記夏

【新茶】 t-2 選25句

若葉して哀れ摘まるる新茶かな

山葵漬なめて新茶をいれかへて

色も香も新茶なりけり飲むべかり

新茶の葉葉の面影はなけれども

新茶蒸らす既に急須を溢るる香

真つ暗な急須に残る新茶の香

送るてふ新茶待たるる釘煮かな

湯加減を塩梅申す新茶殿

櫛して新茶娘が駅前に

日曜の朝に届きし新茶かな

夏は新茶冬は蜜柑や富士を見て

うつすらと汗かくころの新茶かな

千金の終の一滴新茶汲む

豆飯を食ふや新茶もごくごく

ことと置く軽くて小さき古茶の缶

古茶といふ音の響きも古茶らしく

古茶を啜り古書の山にも手を伸ばし

若きらに道を譲りて古茶啜る

禅僧と古茶を啜りて風の音

先達といふべき古茶を蔑ろ

心して古茶の別れを惜しむべし

ぽつと出の新茶が古茶を蔑ろ

古茶新茶去年今年にも似たるかな

長幼の序を退けて新茶古茶

自ら色に出にけり古茶新茶